

令和3年度 第1回生駒市行政改革推進委員会分科会② 会議録

開催日時 令和3年8月24日(火) 午後2時30分～午後4時00分

開催場所 生駒市役所 403・404会議室

出席者

(委員) 高山会長、松岡委員、松山委員、田中委員

(事務局) 武元行政経営課長、岡田行政経営課主幹兼経営係長、烏頭尾行政経営課同係主任

(傍聴者) 2名

欠席者

なし

1 開会

(事務局) 本日の案件は、「前期行動計画の取組状況の確認について」である。

2 案件

「前期行動計画の取組状況の確認について」

(会長) 各委員から提出された評価をとりまとめた資料及び担当課評価が記入された取組状況評価シートをもとに各取組について評価を決定する。

No.2 納期内納付の推進と徴収率の向上

(会長) R1年度について、Aが1名、Bが3名となっているが、意見はあるか。

(委員) 滞納繰越分の徴収率が低いと思う。現年度分と滞納繰越分に分けて記載する必要があるのではないかと。滞納整理班を構成しているが、それがどの程度機能しているのかが見えてこないためB評価とした。

(事務局) 後期行動計画において指標を設定する際に、参考とさせていただく。

(会長) 基本的には、設定された数値目標に対する達成度をどのように評価するのかだと考えている。

(委員) 目標値をもっと上げる必要があると思うがどうか。令和元年度に既に目標を達成しているため、R2年度は目標をもっと上げるべきではないか。他の取組内容についても同様のことが言える。

(会長) 数値目標がどうではなく、既に設定されている数値目標に対しての実績値で検討すればよい。評価をBとし、今後更に徴収率の向上に努められたい。R2年度はどうか。

(委員) R1年度と同様の考え方で、B評価としたい。

No.3 企業誘致による地域経済の活性化

(会長) 意見はあるか。誘致件数と歳入増加額を評価し、A評価とした。

(委員) アンケートの結果、14件の問い合わせがあったとあるが、357社から回答があったにし

ては、問い合わせ件数が少なく感じる。努力の余地があるのではないか。道路整備等、難しい面もあるが頑張してほしい。

(会 長) 4 件の企業立地件数というのは、事務局としてどのように考えているのか。

(事務局) 相手方があるものなので、なかなか思い通りにはいかない。目標値をクリアしていることから一定の評価をしている。

(会 長) 目標値を大きくクリアしていることから A 評価とする。

(会 長) R2 年度について意見はあるか。実績値が目標値を下回っていること、歳入増加額が前年を下回っていることをどう評価するか。コロナウイルスの感染拡大が本格化していることも考慮して評価した委員もいると思うがどうか。

(委 員) コロナウイルスの感染拡大と社会インフラの基盤整備の面を考慮し、B 評価とした。

(会 長) R2 年度について、コロナの影響をどこまで考慮するのかは難しいところがある。目標値に対しての達成度を評価するとした方が統一出来て良いのではないか。

(委 員) 目標値に対しての評価を基本として評価した。コロナの影響が目に見えるものであれば評価に影響したが、見えないものであれば評価に考慮していない。

(会 長) 数値目標は達成していないが、この状況で 1 件の成果があったことから C 評価とする。

No.4 空き家の流通促進と住宅のリノベーション

(会 長) R1 年度について目標値を十分上回っていることから A 評価としたいが、意見はあるか。

(各委員) なし

(会 長) R2 年度についてはどうか。

(委 員) 郵便局での受付を開始するなど、取組強化をしている中で、提供件数が昨年度より下がっていることから C 評価とした。

(委 員) 契約に至る割合が 50%から 40%に低下していることから B 評価とした。

(会 長) B 評価とする。

No.5 プロ農家の確保育成と既存農業者の収入増につながる取組の推進

(会 長) R1 年度は C 評価で一致しているが、意見はあるか。

(各委員) なし

(会 長) C 評価とする。

(会 長) R2 年度はどうか。目標値は全て達成しているが、意見はあるか。

(委 員) 移動販売自治会数の増加等、取組が推進されていることから B 評価とした。

(会 長) B 評価とする。

No.6 国内外からの観光客の呼び込み

(会 長) R1 年度は B 評価で一致しているが、意見はあるか。

(各委員) なし

(会 長) B 評価とする。

(会 長) R2 年度はどうか。目標値は達成できていないが意見はあるか。

(委 員) コロナの影響を大きく受けている中で、目標値に近い実績を達成していることから一定

の評価はできるためC評価とした。

(会 長) C評価とする。

No.7 ふるさと生駒応援寄附等を活用した寄附の促進

(会 長) R1 年度について意見はあるか。寄附額は目標を達成していないが、レガシーギフトといった新しい取組も見られる。これをどう評価するか。

(委 員) 目標を達成していないが、返礼品の充実など今後の寄附額の増額につながる取組をしていることを踏まえB評価とした。こういった取組がR2年度の増額につながったのだと思う。

(会 長) 事務局としてはどう評価しているか。

(事務局) R2 年度の実績については、返礼品の充実やコロナの給付金を寄附された方がいたことなどから増加につながった。

(委 員) R1 年度は相続寄附が1000万円あったため、マイナスが700万円とどまっているのだと思う。相続寄附は毎年あるわけではないので、そこを加味するとC評価が妥当ではないか。

(委 員) 分科会として、見えない要因をどこまで考慮するかが重要である。

(会 長) 目標値との差分を評価のベースとした上で、差分についての議論を行っていくべきだろう。

(委 員) 目標値に対して9割程度達成できていること、遺贈寄附の制度を確立したことから、B評価として良いのではないか。

(会 長) B評価とする。

(会 長) R2 年度については目標値を大きく達成しており、A評価で一致しているが意見はあるか。

(各委員) なし

(会 長) A評価とする。

No.8 歳入増につながる施策の創出、強化

(会 長) R1 年度について意見はあるか。

(委 員) ふるさと納税のような毎年度継続する仕組みづくりではなく、単発の事業になっていることから、結果が伴っていないのでD評価とした。

(会 長) 取組全体が少し弱い印象を受けたため、D評価とした。

(会 長) D評価とする。

(会 長) R2 年度はどうか。昨年度から実績が上がっているためB評価とした。意見はあるか。

(委 員) 企業版ふるさと納税の実績を評価した。今後も企業版を推進していただきたい。B評価とした。

(委 員) 企業版ふるさと納税をもっと増やすことはできるのではないかと今後の期待も込めてC評価とした。他の取組と比べて、熱量が少し弱いように感じた。

(委 員) No.7とNo.8をセットで評価してCとした。No.7は個人、No.8は企業が対象である。No.7については継続的な取組が実を結んだと考えている。No.8については偶発的な事象が多く、年度ごとの実績がばらつくのではないか。

(会 長) 事務局から何か意見はあるか。

(事務局) 委員の発言はまさにその通りである。企業より個人の方が絶対数が多い。また、同じ企業が毎年寄附してくれるというのは難しい。生駒市に縁がある事業者がふるさと納税をしてくれるのではないかという考えから、官民連携を推進する部署と連携し、各事業者とつなげてもらう取組を進めている。

(委 員) 今の話を踏まえて、よく頑張っていると捉えるかどうか。

(委 員) よく頑張っていると思う。

(会 長) それでは、B評価とする。

No.21 持続可能でより適正な職員数の管理

(会 長) R1 年度について、意見はあるか。退職者数が想定より多かったので目標を達成したという点が少し気になる。組織としてきちんと回っているのか。

(委 員) 再任用職員も含んだ人数という解釈で良いのか。

(事務局) 再任用職員は含まない人数である。

(委 員) そうであるなら、より評価が難しい。適正な職員数というのをどのように判断すれば良いのか。

(会 長) 人件費の抑制という観点であれば、職員数が減れば良いのが、適正な職員数の管理となると評価が難しい。

(委 員) 生駒市は他市と比べて適切な人事管理ができていているという印象であることから No. 21～23 を高く評価している。職員数の削減に早くから積極的に取り組んでいる印象がある。また、職員数を減らしすぎるのは良くなく、良質なサービスを提供するには、一定数の職員数は必要である。

(会 長) ここでは現状についてどう判断するかであるため、目標値を達成されていることから A 評価とする。R2 年度について、意見はあるか。評価が難しいが、この取組についてはコロナの影響を考慮せざるをえないと考えている。

(委 員) 休職者数の減少等、職員数については予想できない部分が多いが、テレワークの推進により、休職者数を減らすことはできると思うので D 評価とした。

(会 長) 居住地に縛られない採用とあるが、生駒市民でなくて良いのか。

(事務局) これについては、専門的な知識を有する者にテレワーク等を利用して生駒市の仕事をしてもらうための採用である。居住地に縛られず、通勤圏外も採用対象として、広く有望な人材を募集するため、居住地枠を外した経緯がある。

(委 員) コロナウイルス感染拡大という状況でもよく頑張っていると思うので、C 評価で良い。

(会 長) C 評価とする。

No.22 会計年度任用職員制度への移行に伴う多様な働き方の推進

(会 長) R1 年度について、意見はあるか。

(委 員) 持続的に取り組んでおり、これ以上改善するのはかなり難しいと思うので、評価としては A 評価とした。この取組については、担当課評価を尊重するのが良いと思う。

(会 長) 外部の意見を取り入れるのも委員会の役割である。

- (委員) 数値目標の達成だけで判断するとC評価になるが、これ以上改善の余地があるのか。
- (事務局) 行政の仕事は肥大化する傾向にあるため、事務事業の見直しを含め削減に努める必要がある。
- (会長) 評価としてはC評価とする。R2年度について、意見はあるか。
- (委員) 同様の考え方をするとD評価で良いのではないか。
- (会長) D評価とする。

No.23 柔軟で機能的な組織の構築

- (会長) R1年度について、意見はあるか。
- (委員) 件数で評価するのか、PTの中身について評価するのが難しいと感じた。中身が分からなかったので、純粹に件数のみからC評価とした。
- (会長) PTは一定の成果が出ており、件数で評価しても問題ないと考えてよいか。
- (事務局) 件数で評価していただいて問題ない。
- (会長) では、R1年度はC評価、R2年度はB評価とする。

No.24 AIやICTを活用した業務の効率化

- (会長) R1年度について、意見はあるか。R1年度については目標値と同じ実績値であること、また今後につながる取組ということでB評価とした。
- (委員) RPAやAI-OCRへの移行はスムーズに行われたのか。本当に業務の効率化につながっているのか。
- (事務局) 民生委員の一人暮らし調査をAI-OCRを活用して処理する取組を進めている。これまで民生委員に手書きで記載していただいたものを、1枚ずつ職員が手入力していたが、AI-OCRを導入することで半分程度の時間でできるようになると考えている。
- (委員) 行政側の立場からすると効率化されるのかもしれないが、民生委員の立場からすると紙の量が倍量になってしまい手間が増えてしまった。高齢者の見守りに関するICT化ということであれば、例えば電気ポットの使用状況から安否確認を行うといったようなことにも踏み込んでほしい。
- (委員) C評価とした。データの処理などの基本的なことではなく、先ほどのポットの話のように様々なものをネットワークに結べるようなことまで考慮して展開しているか疑問である。時間はかかるかもしれないが、最新技術を取り入れられるシステムづくりを検討したほうがより良くなるのではないか。
- (会長) 今後の課題として、事務局から担当課に伝えてもらいたい。C評価で良いか。
- (各委員) それで良い。
- (会長) R1年度はC評価とする。R2年度はB評価でよいか。
- (各委員) それで良い。

No. 25 特定事業主行動計画の推進と人事評価制度の活用

- (会長) R1年度について、意見はあるか。
- (委員) 目標値に対する実績値を評価すべきだと思うのだが、「令和7年度末時点で女性管理職

の割合を 33.0%とする」と定めている特定事業主行動計画での目標値から考えると R1 年度の目標値は高く設定しすぎたのではないか。

(事務局) 行動計画に記載の目標値に対する実績値で評価してもらいたい。

(委員) 女性管理職の割合については、徐々に数値が上がっていけば数字に縛られすぎる必要はないのではないか。担当課の自己評価が妥当ではないか。

(会長) それでは、R1 年度、R2 年度ともに D 評価とする。

No. 26 「人材育成基本方針」に基づく人材育成の推進

(会長) R1 年度は B 評価とするが、R2 年度について意見はあるか。何人程度が研修に参加しているのか。

(事務局) ファシリテーション研修は約 40 名、政策形成実践研修は約 20 名である。若手職員が中心に参加している。

(会長) 私は十分に評価できると思う。R2 年度は A 評価で良いか。

(各委員) それで良い。

No. 27 職員採用活動の強化

(会長) 意見はあるか。

(委員) 受験者数は社会経済情勢により大きく変わるので、行政側だけではどうしようもない部分もあるだろう。

(会長) 倍率はどの程度なのか。

(事務局) R1 年度は 62 倍、R2 年度は 43.8 倍である。

(会長) かなりの高倍率を維持されている。一定努力の成果がみられるので、R1 年度は A 評価、R2 年度は C 評価で良いか。

(各委員) それで良い。

3 その他

(事務局) 10 月以降に後期行動計画の策定に着手する。評価する中で感じた改善点等があればご意見を頂戴したい。

(会長) 議論の中で、指標や取組に対する様々な意見があったので反映してほしい。

(委員) 委員会は行政が提示した資料をもとに評価するので、どういった視点でその取組をしているのかという記載があれば、より評価しやすい。

(委員) 事業数や案件数しか見えてこないが、具体的な内容や担当課の想いが分かればより評価しやすかった。

閉 会